

熊本地震から3か月

震災と住民ディレクター報告会

～ポケットのiPhoneで中継を・・・「当事者」の声をいかに伝えるか～

日時：2016年7月30日（土）14:30～18:00

場所：明治学院大学・白金キャンパス2号館B1 2101教室

14:30 第一部:報告会

- ◇「住民ディレクター」とは何だ?
- ◇「被災者による被災地からの災害番組」とは?
- ◇なぜ、それが可能だったのか?

ハード:身近なメディアツールの活用法

ソフト:「八百万」の人的ネットワーク

- ◇もう一人の「当事者」が見た災害報道

震災とメディアの問題を俯瞰し「当事者」の発信を位置付ける

16:20 (休憩)

16:30 第二部:参加者とのディスカッション

- ◇住民ディレクター的ネットワークの可能性と課題

「有事」の情報と「平時」のメディア活動をどう繋ぐか

18:00 閉会



主催：蓮我★番外ゼミ(明治学院大学・古川研究室)
共催：一般社団法人 八百万人
協力：NPO(特定非営利活動)法人 くまもと未来



熊本地震から3か月。東京などでは続報もめっきり少なくなりましたが、被災地の「当事者」の声をどう届けるか…それは依然として大きな課題です。震災の中で起こった、小さいけれど大切な一つのアクション。その報告会のお知らせです。

地域住民が自らの視点で自主放送や地域づくりに関わる「住民ディレクター」を推進してきた岸本晃と熊本在住の仲間たちは、熊本地震で自ら被災者となってしまいました。機材も何もない中、住民ディレクターたちは被害が大きかった地域の避難所から、iPhone中継で身の被災状況を伝え始めます。本震当日に始まったその発信を全国各地にいる住民ディレクターが連携し、各地からの中継も入れながら、毎日15分のインターネット緊急特番を11日間送り続けました。(現在は週一回)

「自分事」としての災害情報は、マスメディアのように俯瞰的な情報は発信できません。でも、刻々と変わっていく被災者のリアルを生々しく伝える貴重な記録となりました。

これを可能にしたのは、これまでの「平時」に築かれてきた住民ディレクターの人的ネットワークだったのです。

今回、この「被災者による被災地からの緊急発信」に関わった住民ディレクターたちが東京で会し、その体験を語る報告会を開きます。災害報道、生活者の発信、地域活性化、モバイル中継etc.、様々な側面から考えることができるこのテーマ。災害時に「当事者」が発信することの意味や、「平時」の活動と「有事」の情報を繋いでいく可能性や課題について、みんなで考える「場」になればと願っています。ご関心のある方は是非ご参集ください。

<p>ふらっとNippon 熊本地震被災地から 特設サイト 住民ディレクター事典 とうほうTV 一般社団法人 八百万人</p>	<p>http://flatnippon.tv/ http://prism-world.net/ http://www.tohotv.jp/ http://www.yaoyorozu-hito.jp/</p>	
---	--	--

住民ディレクターとは？ → **暮らしの知恵の受発信で豊かな暮らしを創造する人**

住民ディレクターとは、豊かな地域を創造する地域づくりディレクターであり、暮らしの知恵の発信者である人のことです。映像番組を制作するプロセス(企画、取材、構成、編集及び広報、放送等)を通じ、地域づくりに求められる総合的な企画力を養い、メディアを活用しながら地域の活性化に貢献する人材の育成を目指しています。

住民ディレクターの一貫した3原則は「(ボタン)を押せば映る」「身体がカメラ」「番組はオマケ」。最近では、地域共同体の地縁社会と、デジタル縁社会を繋ぐコーディネーターの役割も重要になってきました。

1996年春に岸本晃の発案で始まり、全国各地での住民ディレクター講座と番組制作を通して、それぞれの状況に合わせた地域活動に取り組んでいます。



熊本は住民ディレクター発祥の地。1999年くまもと未来国体では、120人の住民ディレクターが活躍。その活動をきっかけに生まれた「NPOくまもと未来」は、今なおそれぞれの活動を継続している。

会場：明治学院大学・白金キャンパスのご案内

お問い合わせ： dorachin@jcom.home.ne.jp



品川駅	高輪口 徒歩約17分または都営バス「目黒駅前」行き「明治学院前」下車
目黒駅	東口 徒歩約20分または都営バス「大井競馬場前」行き「明治学院前」下車
白金台駅	2番出口 徒歩約7分
白金高輪駅	1番出口 徒歩約7分
高輪台駅	A2出口 徒歩約7分